



2016年度 天文資料

平成28年度 第5号 (8月号)

平成28年 8月 7日

発行：佐世保市少年科学館

佐世保市少年科学館



<8月の天文現象>

九州北部地方は、平年より1日早い7月18日に梅雨が明けましたが、その後佐世保は、比較的安定した天気が続き、天文ファンには嬉しい夏となっております。8月の天文現象と言えば、まずはペルセウス座流星群が挙げられます。毎年8月の初めから20日頃にかけて安定した出現を見せてくれるこの流星群は、12月のふたご座流星群と並んで人気の高い流星群です。

また、この夏は木星・火星・土星と3つの惑星を見ることができ、中でも土星とともにさそり座付近にある火星が、8月24日さそり座の1等星アンタレスに近づいて見えます。火星とアンタレス、2つの赤い星が赤さを競い合うのが見ものです。

今回は、ペルセウス座流星群と、火星とアンタレスの接近(実際の接近でなく、接近して見える現象)を取り上げます。

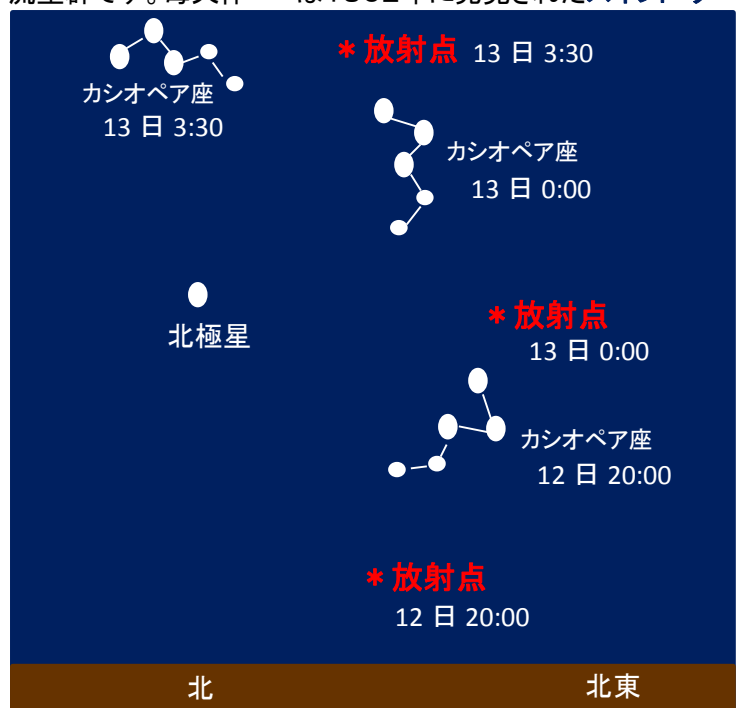
<ペルセウス座流星群>

ペルセウス座流星群は、ペルセウス座付近に放射点を持つ流星群です。母天体は1862年に発見されたスイフト・タートル彗星です。今年は、8月12日(金)の21:00頃がピークと言われていますが、この時間帯は上弦過ぎの月が出ており、観察はややしづらいようですが、主に北東の空を注目してみましょう。ただし、流星はどの方向の空にも出現する可能性がありますから、何人かで観察するときは、方向を分担するとよいでしょう。

月が沈み、放射点が昇ってくる、夜半過ぎが絶好の条件となりそうです。明るい痕を残す流星の出現が予想されていますので、月明かりを気にせず、宵の早い時間から観察するのもいいでしょう。

※1 放射点：流星群は、ある1点を中心として、放射状に出現します。その中心点を「放射点」と言い、その位置またはその付近にある星座の名前を頭につけて、「〇〇座流星群」と言います。

※2 母天体：流星群を出現させる原因となる彗星。彗星が通り過ぎたあとには大量のチリが残り、このチリの中を地球が通過すると、チリが大気圏に突入して大気との摩擦熱で発光し、流星群が発生します。



ペルセウス座流星群の放射点の高度変化

火星とアンタレスの接近

8月24日(水)、火星とさそり座の1等星アンタレスが、接近して見えます。火星は、今年の5月末に地球に最接近しました。今、地球から遠ざかりつつありますが、まだまだ明るく輝いています。

一方アンタレスは、直径が太陽の約700倍もある大きな星です。

アンタレスは、太陽と同じように自分で光を出していますが、このような天体を恒星と言います。恒星は、最期が近くなると大きく膨れ上がるのです。逆に表面温度は下がり、赤い星になります。

火星も赤い星ですが、これは表面の土の中の鉄さびの色です。

火星とアンタレスの近くには、土星も輝いており、にぎやかな星空となるでしょう。

